

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連					
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課			
施策名	21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一			
基本事業名	78	学習やスポーツへの参加機会の提供		担当者名	衛藤 剛	電話番号 (内線)	096-248-5555 1503			
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 05	事業 三つの木の家教育施設費	法令根拠				
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 平成12 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) 自主事業実行委員会が、三つの木の家で実施する社会教育活動について支援を行う。 (業務の内容) 三つの木の家での各種自主事業運営の事務局として、実行委員会運営を支援するとともに、必要な経費を負担金として交付し、通学合宿事業や、ふれあい交流事業等を実施している。 (予算の内訳) 報酬(指導員相当分)、職員給与、職員手当、負担金補助及び交付金						総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)		0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間		
							人件費計 (B)		0	
							トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

自主事業実行委員会負担金(1,260千円)交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催(7月)、通学合宿事業2回開催(10月・2月)、ふれあい交流事業2回開催(9月・11月)、事業先進地研修開催(3月)

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

実行委員会開催(5月、3月)、通学合宿2回(6、10、2月)、サバイバル体験1回(7月)、ふれあい交流3回(5、9、11月)、先進地研修1回(負担金額1,000千円)

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(三つの木の家の家利用者)

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 三つの木の家自主事業の回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 三つの木の家自主事業の参加者数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 三つの木の家利用者数	人
イ	
ウ	

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

三つの木の家自主事業を活発に行う

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

学習やスポーツに参加する機会がある。

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	1,260	1,058	1,260	1,000	1,000	1,000	1,000
			事業費計 (A)	千円	1,260	1,058	1,260	1,000	1,000	1,000	1,000
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	6	6	6	6	
		延べ業務時間	時間	550	550	550	550	550	550	550	
		人件費計 (B)	千円	1,375	1,375	2,184	2,184	2,184	2,184	2,184	
		トータルコスト(A)+(B)		千円	2,635	2,433	3,444	3,184	3,184	3,184	3,184
活動指標		ア	回	8	8	6	8	8	8	8	
		イ									
対象指標		ア	人	22,000	23,000	53,000	53,500	54,000	54,500	55,000	
		イ									
成果指標		ア	人	160	160	120	160	160	160	160	
		イ									
上位成果指標		ア	人	3,849	2,935	3,612	4,000	4,200	4,400	4,600	
		イ									

合志市

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
三つの木の家自主事業実行委員会が平成12年度から設置され、施設の有効利用と青少年の育成のため始まった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
平成11年度から社会教育施設として再スタートし、旧合志町地域の小・中学校だけでなく、住民団体の活動にも使用できるようになった。その後、自主事業も積極的に開催されたが、合併後、旧西合志町地域の学校や地域住民も利用できるようになった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特に聞いていない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 三つの木の家自主事業を積極的に行うことによって、参加者が増え生涯学習の振興に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 宿泊できる社会教育施設として、特色のある自主事業が行われるので、生涯学習機会を多方面に提供できるため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象・意図とも現状では適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 自主事業実行委員会による企画段階で、魅力的な事業を組めばより成果が上がるのではないかと。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 三つの木の家の利用者が減少し、施設の有効利用が損なわれる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類のない施設であるため、統廃合にはなじまない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 自主事業実行委員会の負担金も、市全体で助成金が見直しがある場合には、削減されることも考慮しなくてはならない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 自主事業実行委員会の事務は、正職員が大部分を行っているが、嘱託職員等で行うことも可能であるため、削減は可能である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 原則として、自主事業の参加者からは負担金を受けており、公平である。

合志市

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

自主事業の募集に対する応募割合は全事業で100%を超えており、住民のニーズに応じた事業であると思われる。現在、三つの木の家自主事業は、小中学校児童生徒への事業が主で、青少年育成には寄与しているが、実行委員会でもより広い年代、市民全般に対する事業を検討する必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

三つの木の家自主事業は、青少年育成に寄与しているが、実行委員会でもより広い年代、市民全般に対する事業を検討する必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

年々負担金が減少している。これからも実行委員会への負担金(補助金)の大幅削減が実施されれば、事業の一部見直しは避けられない。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項